

品川・生活者ネットワーク区議会議員 井上八重子の区議会レポート

●品川・生活者ネットワーク区議会議員 井上八重子の区議会レポート№87 ●2014年8月1日発行 ●発行責任者/井上八重子/
〒140-8716 東京都品川区広町4F TEL.03-6742-8882 shingawa@seikatsusha.net http://shingawa.seikatsusha.net/

HOT NEWS

空き家・空き店舗の活用で、まちを豊かに

品川区議会議員 井上八重子

東京都の空き家は75万戸(空き家率11.1%)、品川区は空き家2万5千戸(空き家率11.7%)、2008年住宅土地統計調査とされています。高齢者の単身世帯の増加を背景に、解体してさらけにする固定資産税が3.6倍に跳ね上がるため、空き家はますます増えることが予想されます。すでに適正管理と利活用の促進に着手した自治体もあり、豊かな地域社会づくりをレポートする「認定NPO法人まちぼっこ」のスタッフを講師に、地域の資源活用を促す第一回目のまち歩き調査を市民とともに実施しました。

歩いて見えてきたこと
意外に多い空き家・空き店舗



調査対象に選定したのは、二葉4丁目と西大井6丁目。二葉4丁目は高齢化率23.6%、西大井6丁目は22.0%と、品川区の高齢化率20.8%から比較すると高齢化が進んでいる地域と言えます。また、人口密度も高く、総合危険度4.5ランクと防災上不安を抱えるエリアでもあります。2班に分かれ、2時間あまり地域をくまなく歩いて目視や聞き取りで空き家、営業していない店舗・工場また防災上危険と思われる箇所などを地図に落とす作業を行いました。



▲1軒1軒すべての家も見るつもりでしっかり調査で、雨、暑さをくまなく歩いて回り、まちの様子をしっかりとアングラしながら調査を進めた。7月3日

PM15時の活性化
まちめぐり



世田谷区では昨年より空き家などの地域貢献活用を目的とした相談窓口を開設し、空き家などを保有するオーナーと利用団体とのマッチングに取り組みんでいます。

品川区は2014年に800万円を予算化し、空き家の管理不全を解消するための条例づくりに向けた基礎調査を目的に、初の空き家調査に着手します。

実際に歩いてみると、両地区とも町工場・商店が多く、居住

文京区では4月から、所有者

初めは調査に着手します。



井上 八重子

http://inoue.seikatsusha.net/
お問い合わせ/連絡先
品川・生活者ネットワーク
〒142-0043品川区二葉1-10-11
TEL.03-5751-7105
FAX.03-5751-7106
shingawa@seikatsusha.net
http://shingawa.seikatsusha.net/
政治の主役は市民です。生活者ネットワークは、まちに暮らす人々の声をもとに具体的な政策を提案する参加型政治を進め、品川を市民が自治するまちに変えるために活動しています。生活者ネットの議員は専任でも3期12年で交代し、議員を職業化・特権化しません。

調査は予定にはありません。空き家・店舗を、地域の負」ととらえず、地域資源として有

効活用できるようにするため、地域住民が話し合うことから始めることが重要です。活動拠点も求めているボランティア活動や市民事業の発見や掘り起しにもつながります。地域の人々がゆるやかにつながりをもちながら共に暮らしていきける「地域コミュニティの活性化・再生」をめざしていきけるよう、政策提案につなげる作業をこれから進めていきます。

Column 利用者を置き去りにした 大崎図書館移転計画



2013年3月、予算特別委員会が教育委員会図書館長は、大崎図書館の一般図書館は充実して存続と区の計画を示した。その後方針は二転、旧御殿山小学校跡地に移転すると発表。大崎図書館利用者や区民への説明や意見の聴取などは一切行われていない。

■図書館がなくなる?!
大崎図書館は1階に一般図書、2階にビジネス支援図書をそろえて二つの機能を持ち合わせています。2階のビジネス支援機能は再開発で、ものづくりの拠点として北品川にオープンする区立産業支援交流施設に移転し、廃止。1階の一般図書は児童図書を補充して現状のまままで使えるよう庁内プロジェクトを検討してきました。

とまろが3月の行財政改革特別委員会でも、1階部分の大崎図書館を旧御殿山小学校西側施設に移転すると発表に公表しました。地域の住民にとっては大崎図書館の移転は「毒耳に水」です。3日公表までの間に図書館移転がワルカムの御殿山小周辺の住民には事前に説明がされず、どうなるかとなる大崎の地では「説明がされませんでした。」

6月30日大崎図書館存続の請願2件が文教委員会審議されました。図書館の廃止理由は1983年の開設から31年経過して老朽化、地下倉庫改修経費が2千万円、トイレが和式など答弁。一方移転後の対策として図書館を廃止する代わりに、大崎西口と芳水小学校内に取り次ぎサービスと図書館閲覧コーナーを設けるといふもの。

公共施設の30年利用は珍しくなく、図書館の蔵を残し倉庫とトイレは必要であれば改修すればよく、現地の図書館を移転する理由として「安当性・整合性」は見当たりません。市民を置き去りにした計画変更は撤回し、「利用者懇談会」を創設し、議論を積み上げていくことを求めます。